

肝臓の機能

肝臓の機能は大きく分けて、①栄養素の代謝、②胆汁の生成、③解毒作用の3つがあります。



① 栄養素の代謝

蛋白質の代謝	アミノ酸の合成を生成するほか、血漿タンパクであるアルブミン、グロブリン、血液凝固物質の合成を行い、血中に送り出しています。
脂質の代謝	脂肪酸やコレステロールの合成をします。
糖質の代謝	胃や腸から消化されてやってきたブドウ糖をグリコーゲンの形で貯蔵し、ブドウ糖が足りない時には、これを分解してブドウ糖を放出して血糖値を安定させます。
ビタミン・ホルモンの代謝	ビタミンAを貯蔵し、ビタミンDを活性化する働きがあります。また、ステロイドホルモン（副腎皮質ホルモンや性ホルモン）の分解を行います。

② 胆汁の生成

胆汁は肝臓で生成されます。胆汁の主成分は胆汁酸やビリルビンで、これは中性脂肪を乳化させて、膵臓から分泌されるリパーゼの作用を受けやすくさせます。中性脂肪はリパーゼの作用により、脂肪酸とモノグリセリドに分解されて、腸から吸収されます。

③ 解毒作用

肝臓は血液中に紛れ込んできた有害物質を分解して、無毒化しています。

腸から吸収され肝臓に運ばれたアルコールは、肝臓内でアセトアルデヒドから酢酸へと分解され、最終的には二酸化炭素と水になって体外に排出されます。また、タンパク質を分解する過程では、有害物質のアンモニアが作られますが、アンモニアは肝臓に運ばれて尿素となり、尿中に排出されます。

肝機能低下による症状

肝臓は沈黙の臓器といわれますが、実際、機能が3分の1以下にならないと症状はでないとされます。肝機能障害による主な症状は以下のとおりです。

